

2017年5月のフランス大統領選挙の結果に 関する欧州の左翼諸政党の声明

2017年5月

目次

1. 欧州左翼党「ルペンの伸長を長期にわたって食いとめるためにマクロンの新自由主義的な計画に対する左翼の抵抗を組織しよう」
2. ドイツ左翼党「フランスの大統領選挙の結果について——党幹部会決議——」
3. フランス共産党「大統領選挙の第2回投票に関するピエール・ローランの声明」
4. フランス左翼党「6月11日と18日は、服従しないフランスの多数派のためにある」

編集・発行 民主主義的社会主义運動理論政策委員会

*この『翻訳資料』は、『週刊MDS』のホームページ (<http://www.mdsweb.jp/>) から無料でダウンロードすることができます。

1. 欧州左翼党¹

ルペンの伸長を長期にわたって食いとめるために マクロンの新自由主義的な計画に対する左翼の抵抗を組織しよう

2017年5月8日

フランスにおける大統領選挙の結果を受けて、欧州左翼党の議長であるグレゴール・ギジは以下の声明を発する：

「フランスの市民たちは幸いにして、極右の代表的存在であり人種差別主義者であるルペンが〔大統領府のある〕エリゼ宮に入っていくことを大多数でもって阻止した。エマニュエル・マクロンがフランス国家の新しい大統領となる。

マクロンは新自由主義的な政策の実施を予告している。それはしかし、フランスおよび欧州全土におけるこれ以上の社会支出の削減を阻もうとする、強い意志にもとづく抵抗に直面せざるをえない。新自由主義的な政策をさらにいっそう推し進めるなら、それは極右の勢力を強め、EUを危険にさらすことになるであろう。

これに対して左翼は、フランス、ドイツ、そして欧州全土において断固たる抵抗を組織する決意である。」

2. ドイツ左翼党

フランスの大統領選挙の結果について ——党幹部会決議——

2017年5月8日

フランスにおける大統領選挙では、国民戦線の極右の候補であるマリーヌ・ルペンが大統領になるのを阻止することができた。これはよいことだ。とはいえ、ルペンに投じられた34%もの票は欧州に対する警告のしるしである。むしろ、マクロンが大統領に選ばれたことはフランスと欧州における新自由主義政策への代替案にはならない。多くのフランス人たちは政治的確信をもってマクロンを大統領に選んだのではなく、マリーヌ・ルペンの当選を阻むためにそうしたのである。多くの人びとはそもそも投票に行かなかったか、あるいは態度を保留したのだった。マクロンは銀行と大資本の代表者であり、新自由主義の政策を追求するであろう。それにより、民営化がさらに進行し、社会的な諸矛盾が深刻化することは避けられない。そうなれば、マリーヌ・ルペンに数百万もの票が投じられたことに示されているような右翼の進出を押しとどめることはできなくなる。したがって必要なのは、新自由主義政策に対する左翼の側からの抵抗を組織することである。フランスにとってのみならず欧州全体にとっても憂慮をかきたてるこうした情勢のもとで、左翼の政治勢力を強めることが何としても必要である。ナショナリズムと人種差別と新自由主義に対する代替案を

¹ 欧州左翼党 (Party of the European Left) は、社会民主主義よりも左に位置する欧州の左翼諸政党の緩やかな連合体として2004年に結成された。フランスの共産党と左翼党、ドイツの左翼党、イタリアの共産主義再建党、ギリシャのシリザなどが加入している。

提示することができるのは、左翼だけなのだ。ジャン・リュック・メランションが獲得した大いなる成果は、問われている左翼の強化のための良好な土台となる。6月には議会の選挙が控えているが、フランスの選挙法のもとではこの選挙において左翼が議席を獲得するのは困難である。大統領選挙において獲得された力を、左翼の諸勢力が統一して登場することで活用することができるなら、議会の選挙においても左翼が良好な成果を収めるチャンスが得られる。そのことはフランスの利益にかなうだけでなく、欧州全体の発展にも沿うものとなるであろう。

3. フランス共産党

大統領選挙の第2回投票に関するピエール・ローラン²の声明

2017年5月7日

今晚、国民戦線の候補者〔であるマリーヌ・ルペン〕は大統領に当選しなかった。これは安堵をあたえてくれる！有権者の大多数は、憎悪と分離という彼女の考え方を、人種差別と外国人嫌悪にもとづく彼女のプロジェクトを、そして著しく差別的で自由主義的で好戦的な彼女の政策を国家の頂点にすえることを欲しなかったのだ。

私たち共産主義者は、ルペンの敗北に明確に貢献したことを誇りに思っている。なぜなら、彼女がこの共和国とその統一とに対する脅威でありつづけるであろうことを私たちは知っているからだ。

しかし今晚、私たちの心は浮かれてはいない。私たちの国は重大な時期を生きている。今回の決選投票はあらためて、民主主義と平等を支持するすべての人びとにとってきわめて重大な警告となっている。マリーヌ・ルペンは33.9%の得票率により、第1回投票のときに比べて数百万もの票を上積みして獲得している。これは、反対して闘うことを私たちがかつてなかったほど断固として決意した極右の考え方が、人びとのあいだに広く浸透したことの結果である。それはまた、背信行為と緊縮財政がくり返されるといふ、人びとの利益に背を向けるような過去数十年にわたる政権交代の帰結でもある。今晚、私たちは、決選投票によって窮地に追い込まれたと感じている数百万もの人びとの怒りを共有している。この窮地は、使い古され倒錯してしまった第5共和政の仕組みによって生み出されたものである。これから先、私たちは、極右と闘うためにしぶしぶでも投票しなければならないという義務感をもはやこれ以上覚えたくはない。私たちはまた、極右が伸長するのを見たいとも思わない。そのためには、金融市場による監視からフランスを解放し、あらゆる水準において新たな権力を掌握することにより「人間が第1」³であることを宣言して金融の支配に挑戦をいどみ、幸福・連帯・正義・エコロジー・平和・平等を尊重する新しい社会への道を切り開くような、本当の政治変革を成就しなければならない。

こうした進歩の政治を選ぶのは、今晚に共和国の大統領として選出された金融界の候補であるエマニュエル・マクロンではない。彼の当選は不安定なものである。マクロンに投票した数百万もの有権者たちは何よ

² ピエール・ローランはフランス共産党の全国書記である。

³ 「人間が第1」というという標語は、2012年の大統領選挙に立候補したジャン・リュック・メランションの選挙綱領の題名である。

りも、マリーヌ・ルペンがエリゼ宮へ進んでいく道を遮断しようと思ったのだ。そうした有権者たちの多くはすでに第1回投票においても、フィヨン⁴とルペンとの一騎打ちを回避するために、気乗りがしないままマクロンに投票した。きわめて新自由主義的で、社会保障と民主主義の深刻な後退をもたらす彼のプロジェクトは、この国では少数派のものである。日程に上っているのは、彼の政策への対案となるような社会的でエコロジー志向で民主主義的な変革と、それを担う左翼の新しい多数派という選択肢を築きあげることである。明日から、そして以降の〔マクロン政権が続く〕5年間にわたって、私たち共産主義者は手元にあるあらゆる資源を用いながら、この道を前進していくべく結集するであろう。

労働者の権利を弱めようとする労働法典の改悪に対して私たちは、雇用および職業訓練の保障を対置するであろう。なぜなら、金融市場の顔色をうかがう企業や銀行に対抗する新しい権力をつくり出すことによって、失業と雇用の不安定性とを根絶しなければならないからである。年金受給権の制限と、告知されている社会保障分担金の削減によってさらにいっそう助長される社会保障の民営化とに対して私たちは、社会保障を擁護し発展させるための計画を対置するであろう。公共支出の600億ユーロもの削減と12万人もの公務員の人減らしに対して私たちは、あらゆる領域での近隣公共サービスを再建する計画を対置するであろう。社会保障に背を向けるマクロンのプロジェクトに対して、右派と極右の超反動的なプロジェクトに対して、私たちは全力で闘いをいどむであろう。

私たちが6月11日と18日の議会選挙を闘おうと思うのは、この精神によってである。フランス共産党は今晚から全力を挙げてこれに取り組む。議会の多数派が獲得されるのはほかの誰のためでもない。私たちの人民こそが、自分たちの現在と自分たちの未来を決定する新しいチャンスを持っているのだ。

私たちは、4月23日にジャン・リュック・メランションに対して投じられた市民の数百万の票に励まされつつ、彼の立候補を支持したすべての勢力ならびに私たちの隊列に加わってくれる用意のあるすべての勢力と協力するなら、国民議会のなかに強力な全国的代表を送り込むべく共に意気高く進むことができる。統一するなら、私たちは非常に多くの選挙区において勝利することができる。分裂するなら、得られるものは限定されるであろうし、それは「前進」⁵、右派、あるいは極右の代議士に議席を譲り渡すことになるであろう。左翼とエコロジストのあらゆる有権者を前にして、私たちは大いなる共通の責任を負っているのだ。彼ら／彼女らは私たちが統一することを要求している。

そのためには、公平で多くの人びとの利益を代表する広範にして全国的な合意が必要であり、この合意は、「不服従のフランス (France insoumise)」⁶、フランス共産党、「アンサンブル」⁷、そして左翼戦線⁸に集

4 フランソワ・フィヨンは保守の共和党の政治家であり、サルコジ大統領のもとで首相を務め、2017年には大統領選挙に立候補したが、妻や子どもへの不正報酬の疑惑が明るみに出て第1回投票で敗退した。

5 「前進」は、マクロンが2016年4月に「右でも左でもない政治をめざす」として結成した政治団体である。2017年6月の国民議会選挙においてマクロンは、この「前進」から議員候補を立てて議会の多数派を形成することをねらっている。

6 「不服従のフランス」は、2017年の大統領選挙へのジャン・リュック・メランションの立候補を支援するべく左翼党の発議により2016年2月に創設された政治団体である。ただ、このときメランションは、統一戦線組織である左翼戦線の解散を一時的に宣言したため、左翼戦線に集っていた他の諸組織とのあいだにしこりを残している。

7 「アンサンブル」は、「左翼とエコロジストと連帯のオルタナティブをめざす運動」であることを掲げて2013年11月に結成された政治運動体であり、左翼戦線にも加入している。

8 左翼戦線は、2009年の欧州議会選挙の折にフランスの共産党、左翼党、統一左翼によって結成された統一戦線組織である。

う市民たちをふくむ私たちすべてを結集させる共通の旗のもとで形成されなければならない。これは、4月23日にジャン・リュック・メランションに票を投じた有権者の多数がいただく期待と希望に応えるものである。

いずれにしても、私たちは団結するなら、国民戦線がしっかりと根を下ろしているような多くの選挙区においても、同戦線へと票が投じられるルートを遮断するために活動することができる。私たちは各選挙区において、私たちに勝利のための最大の機会をあたえてくれる候補を選ぶことができる。私たちは今晚新たに、「不服従のフランス」の政治的指導者たちに向かって厳粛な訴えを発する。すなわち、上記のような全国的な合意に到達するうえで、まだ遅すぎるわけではない、と。そして、たとえこの願望が共有されないとしても、私たちにはもっと限定された合意を受け入れる用意がいつでもある。私たちはそうした合意についてこれから先、この国全体での対話を呼びかける。

私たちの党は今回の一連の選挙に、あるひとつの願望をいだきながら関わっている。それは「人民を国民議会に参加させる」という願望である。私たちが支援する共産党と左翼戦線の候補者たちは、民間部門であると公共部門であるとを問わずさまざまな職業や労働組合で働くフランス労働界を代表する人びとであり、さまざまな出自をもちながら自分の住む地域で活動する市民たちであり、政治の刷新を担おうとする若い候補者たちであり、かつまた地域で候補に選ばれたことに強い責任感を感じている経験豊かな男女たちである。

そうした人びととともに、ピエール・ローランは5月11日（木）の19時からパリのジャッピー体育館での大規模な集会において、私たちの全国的なキャンペーンに着手するであろう。

極右との闘いをおし進め、他者に心を閉ざす考え方を後退させるために、そして新しい大統領が実行しようとしている社会保障の解体ならびに危機と不平等の深刻化をもたらす政策への抵抗とそれに代わるプロジェクトとにいまからただちに従事するために、私たちは明日から強くなり団結しようではないか。

そうすることにより、4月23日に投票箱のなかで生まれた新しい左翼の約束を具体化しよう。

4. フランス左翼党

6月11日と18日は、服従しないフランスの多数派のためにある

2017年5月10日

大統領選挙の第2回投票がついに終わった。ルペンが敗北し、私たちはそれを喜んでいる。マクロンへの投票という形であれ、棄権という形であれ、あるいは白票や無効票という形であれ、多くの人びとが国民戦線を拒否したのだ。それにもかかわらず極右は、第5共和政において最も惨憺たる結果を招いたオランド政権の5年間から養分を吸収しつつ、これまでけっして獲得したことのなかった成果を記録している。マクロンが大統領に選ばれた。彼はしかし、この国における政治的な少数派でありつづけている。有権者の34%以上の人々が白票、無効票、または棄権を選択したのであり、それは1969年以来記録されていないほどの高い水準に達した。「私の綱領に賛同せよ」という新しい大統領の命令に服従することを、人民は拒否した。ルーブルの中庭で勝利演説をした新しい君主〔マクロン〕が住んでいるのは、完全に最期のときを迎えつつ

ある第5共和政でしかないのである⁹。

6月11日と18日の議会選挙は、この大統領選挙の第3回投票に該当する。「前進」という〔マクロンの〕政治運動体は、シラク政権とオランド政権のかつての閣僚たちを再利用することによって政治の古い舞台を「マクロン化する」ことを企てるであろうが、それに対しては、5月1日のデモ行進の際に不服従の人たちが声高く唱えた「国民議会の100%の刷新」こそが実現されなければならない。大統領選挙の第1回投票からすでに追い払われていた社会党や共和党といった既成政党も、国民戦線も、この国における多数派の政治勢力を建設する能力をもちあわせていない。マクロンを大統領に当選させたにもかかわらず、そうした仕事は「前進」にとってもきわめて困難であろう。大統領選挙の2回の投票のあいだにくり広げられた愚かな論争は、人びとをまとめあげる能力を彼らもっていないことを示した（もし彼らにそうする必要があるとすればの話だが）。エコロジー問題に対する、したがって人間的な利益一般に対する彼らの完全な無関心ぶりが、このことを暴露している。新しい大統領が今回の選挙を終えたとき、彼は、行政命令の連発によって実施すると彼が約束した労働法典に対する攻撃を、失業者の権利に対する攻撃を、そして私たちの年金制度に対する攻撃を仕かけるための政治的な多数派を握ってはいない。しかも、他方における憎悪の政党〔国民戦線〕は、裕福な者たちの権力に反対するうえでの彼らの無能力ぶりを示した。国民戦線は、少数支配体制を永続化させるのに利用される踏み台でしかない。

ルペンを打ち負かすための多数派を得たあとで、今度は「共同でつくる未来」¹⁰のための多数派を建設しよう。

ジャン・リュック・メランションを支持した700万人の有権者たちとともに立ち上がった人民の勢力は、第2回投票においてもメランションに62万票を投じた。この勢力はいまや次の議会選挙に、「多数派になる」という大なる願望を寄せることを決意した。それは可能である。そのことは、7つの県と61の選挙区でジャン・リュック・メランションを1位に押し上げ、167の選挙区で彼を2位に押し上げた賛同票が証明している。私たちが獲得した票は451の選挙区において、議会選挙の第2回投票にまで駒を進めるのに必要な12.5%の得票率を超えている。私たちは、大統領選挙のキャンペーンの開始から首尾よく取り組んできた偉大にして高貴な課題を追求しなければならない。それはつまり、人びとをまとめあげ、——私たちがすでにそうし始めているように——棄権したり国民戦線への投票に引き寄せられたりすらしている有権者の多くを私たちの側に引きつけることである。この国に行き渡っている深刻な危機、数十年にわたって権力を分ちあってきた2大政党を追い払おうという人びとの意志によって明らかになった深刻な危機に対して私たちは、断絶であると同時に希望でもあるような内容をあたえなければならない。私たちはかつてなかったほどに平和的な危機の解決策とならなければならない。

進行中である市民の革命は、同じ綱領、同じ戦略、同じ方法をもって継続されなければならない。むろん、統一を求める命令¹¹は、真の内容をとまわらない政党間協定や同盟への回帰があたかも拒絶以外の選択を呼び覚ますかのように鳴り響いた。1年ほど前に創設された「不服従のフランス」という勢力はまさしく、綱領の内容と斬新な市民キャンペーン運動のまわりに人びとをまとめあげようという選択の産物である。左翼

⁹ フランス左翼党とジャン・リュック・メランションは、「第6共和政」の創設を提唱している。

¹⁰ 「共同でつくる未来」は、2017年の大統領選挙においてジャン・リュック・メランションの選挙運動母体となった「不服従のフランス」が掲げた選挙綱領の題名である。

¹¹ この「統一を求める命令」はおそらく、フランス共産党が「不服従のフランス」に対して発した統一への呼びかけを指しているものと推定される。

党は2016年1月以来、そうした戦略とキャンペーン手法とを選択したのだ。それらの戦略と手法は、来る議会選挙に向けてかつてなかったほど追求されなければならない。

憲法制定権力のための、エコロジカルな計画化のための、富の再分配のための、そして平和をめざすフランスの独立のための熱意に満ちた闘いを続けよう。 けっして諦めないようにしよう。喜びをともに味わうことはなお十分に可能である。私たちは第1回目の投票で勝利に近づいていた。第3回目の投票で勝利を待ち受けるという目標をもとうではないか！